

# 主題 「接続期の教育の充実をめざして」 ～保幼小の連続性を考慮した接続期のカリキュラム作成を通して～

保幼小連携研究班 太田代 明子 (松園保育園 主任保育士) 新淵 ゆかり (南城保育園 首席主任)  
北山 郁代 (土沢幼稚園 園長) 白藤 千恵美 (大谷幼稚園 教諭)  
千葉 智子 (花巻小学校 教諭) 市野川 淑子 (若葉小学校 教諭)

## 1 主題設定の理由

平成21年度実施の保育所保育指針・幼稚園教育要領、平成23年度完全実施の小学校学習指導要領では、保育園・幼稚園と小学校との連続性を考慮した保育・教育が必要であることが示された。各施設においては、施設間の連携を密にしながら、子どもの発達や学びの連続性を保障していくことが大切である。

花巻市内の保育園・幼稚園・小学校でも、各施設間の連携を重視し、園長・校長などの行事出席や担当者の行事・授業参観といった「職員間の交流」、園行事への卒園生の参加や園児の小学校行事への参加・体験入学・交流学习といった「幼児と児童の交流」、保護者懇談会で小学校の職員やPTA役員から話を聞くといった「保護者間の交流」等の連携が進められている。

しかし、現状では、物の見方や指導方法について、保幼小それぞれの立場によって解釈が異なることから、「めざす子ども像を共有化し、接続期の連続性を考慮した指導方法等を検討する」「子どもの発達の段階に応じて施設が果たす役割について再認識する」といった部分で取り組みが十分であるとはいえない。

そこで、接続期のカリキュラム作成を通して、子どもの発達過程や他施設での保育内容・教育内容を理解するとともに、共通の解釈に基づいて、取り組みを見直すことにより、各施設での保育・教育の充実を図ることができると考え、本主題を設定した。

## 2 研究の方向性

保育園・幼稚園・小学校の環境や子どもの実態把握に基づく、保幼小の連続性を考慮した接続期のカリキュラムの作成を通して、保育園の保育課程、幼稚園・小学校の教育課程について共通理解し、保幼小の保育・教育の充実・改善を図る。

## 3 研究の年次計画

第1年次 (平成22年度)

子どもの実態把握に基づき、接続期のカリキュラムの素案を提示し、接続期の実践に向け、取り組みを促す。

第2年次 (平成23年度)

接続期のカリキュラム素案に基づく実践により改善点を明確にし、保幼小の連続性を考慮した接続期のモデルカリキュラムを提示する。

## 4 第1年次の研究内容

- (1) 保幼小それぞれの施設の要覧、保育課程・教育課程、経営案等の資料による指導の概要把握
- (2) 情報交換による実態把握～生活習慣に関する(食に関する)情報交換～
- (3) 保育・学習参加による実態把握～各施設における子どもの実態と、実態に合わせた指導状況の理解～

1クラスの人数が同じような規模の組み合わせ、A・B2チームに分かれて実施

<Aチーム>		<Bチーム>	
◇ 南城保育園	8月6日(金)	◇ 松園保育園	8月6日(金)
◇ 大谷幼稚園	9月28日(火)	◇ 花巻幼稚園	9月16日(木), 10月5日(火)
◇ 若葉小学校	10月27日(水)	◇ 八重畑小学校	10月28日(木)

- (4) 接続期におけるカリキュラム素案の作成
  - ① 接続期のカリキュラム編成上の接続期と視点の設定
  - ② カリキュラム提示内容の検討

## 5 第2年次の研究内容

- (1) 接続期のカリキュラム素案に基づく実践
- (2) 接続期のカリキュラム素案の修正
- (3) 具体的事例の検討
  - ・ ものとのかわり…【保幼】No8 【小】No14, No20, No21
  - ・ 人とのかわり…【保幼】No27, No29, No30, No31, No40, No42, No44, No45 【小】No54, No55①②

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- ① 接続期のカリキュラム作成や事例検討を通して、接続期の子どもの姿や指導上の配慮事項などが明らかになり、保育課程や教育課程の共通理解が図られた。
  - ・ 各施設における事例を元にカリキュラムを検証する過程において、指導者が留意していることを具体的に明記できたことで、指導の在り方を理解しあうことができた。
  - ・ 接続期のカリキュラムが一覧となったことで、保幼小それぞれの担当者がカリキュラムの文言を手掛かりに話し合うなどの取り組みがしやすくなった。
- ② 他施設の職員と保育や教育について協議することが、自施設の取り組みについて振り返る機会となり、自施設の保育・教育を見直すとともに見通しをもった保育・教育の大切さを再認識することができた。
  - ・ 保育者や教師が自分たちの施設の保育課程や教育課程が発達や学びを保障する経験を伴ったものになっているか、あらためて見直すきっかけとなった。
  - ・ 保育者や教師、子どもの育ちを知るために参観日を設定したり、連絡を取り合ったりする機会を重ねる中で、各施設で大事にしている内容を捉えることができた。それを生かし、カリキュラム素案の文言を再度見直し、修正をすることができた。また、連続性を考慮するために自分の行っている保育や教育に見通しをもち、充実させていくことが大切であることを再認識した。
- ③ 保育園・幼稚園と小学校の職員が他施設を参観する機会が増し、参観機会や連絡会の設定について進めやすくなった。
  - ・ 行事や授業参観の機会に子どもの様子を確認し合うだけでなく、お互いに施設間を往き来し、職員同士が顔を合わせるが多くなった。
  - ・ 連絡会等の設定にあたって、多施設からの受け入れを行う小学校がかじ取りをしたことでスムーズな連携が図られた。

### (2) 課題

- ① 参観・交流学习や連絡会等、連携のための様々な取り組みの目的を職員間で明らかにした上で、地域の条件を考慮し、継続性のある取り組み方を工夫しながら計画し、推進してことが必要である。
  - ・ 地域の子どものに関する課題をすりあわせるなどしながら、発達や学びの連続性が保障されるように協調しながら取り組みを推進していく。
  - ・ 地域のよさを共通理解しあい、継続可能な取り組み方を検討していく。
- ② カリキュラムの利用に関して、担当者の配属・担当学年等が変わっても継続して活用していけるよう施設内で継承していくことが必要である。
  - ・ 子どもの育ちの連続性から、保育園・幼稚園では4・5歳児の担当者、小学校では1・2年生の担当職員など、対象学年の前後の職員を交えてカリキュラムを通した子どもの育ちの共通理解を図るようにしていく。
  - ・ 施設ごとに保幼小連携の意義を理解していくことが大切であるが、担任配属が変わっても取組が継続していくような引き継ぎや組織運営の在り方を見直していく。

### 【参考資料】

- 厚生労働省(2008) 保育所保育指針 (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf>)
- 文部科学省(2008) 幼稚園教育要領 ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm))
- 文部科学省(2008) 小学校学習指導要領 ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/))
- 文部科学省(2010) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/070/houkoku/1298925.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/houkoku/1298925.htm))
- 山口県保・幼・小連携推進協議会(2005) つながる子どもの育ち  
(<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/kyo-gimu/tsunagaru/00.htm>)

品川区(2010)、『しっかり学ぶ しながわっこ ～保幼小ジョイント期カリキュラム～』品川区教育委員会事務局

盛岡地区ジョイントスクール指定園・校(2005)、『基本的生活習慣の指導を共通に』、岩手県教育委員会

国立教育政策研究所教育課程研究センター(2005)、『幼児期から児童期への教育』、ひかりのくに株式会社

丸山美和子(2003)、『子どもの発達と子育て・子育て支援』、かもがわ出版

丸山美和子(2005)、『小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し』、かもがわ出版

丸山美和子(2008)、『育つ力と育てる力』、大月出版